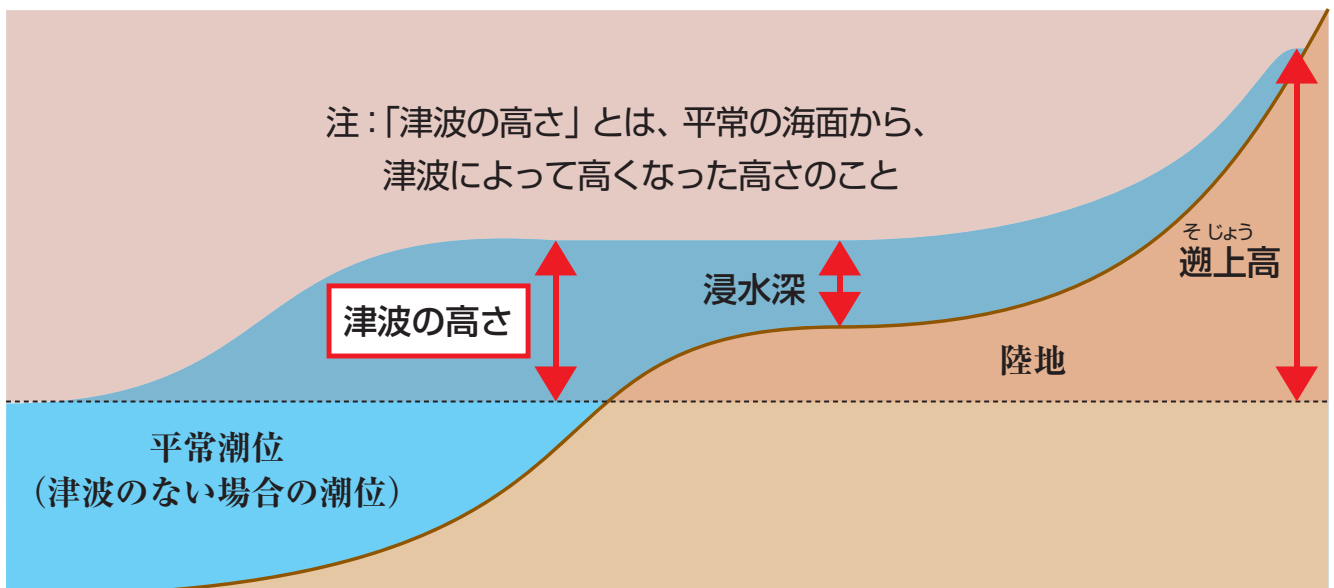


東日本大震災の津波は東北地方から関東地方の太平洋沿岸に甚大な被害をもたらしました。**津波から身を守るには、唯一「逃げる」しかありません。**揺れを感じなくても津波注意報や警報が発表されたらとにかく高い場所に避難してください。

津波に関する警報・注意報

大津波警報（特別警報）・津波警報・注意報は、東日本大震災の教訓を踏まえて、マグニチュード 8 を超える巨大地震の場合は、その海域における最大級の津波を想定して発表します。最初の津波警報では、予想される津波の高さを数値で示さず、「巨大」「高い」という言葉で発表して避難を促すことに重点を置きます。津波の予想高は津波情報により公表します。

警報・注意報 の分類	予想される津波の高さ			想定される被害
	高さの区分	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の場合 の表現	
津波注意報	20cm~1m	1m	(なし)	●海の中では人は速い流れに巻き込まれる。
津波警報	1m~3m	3m	高い	●標高の低いところでは津波が襲い、 浸水被害が発生する。 ●人は津波による流れに巻き込まれる。
大津波警報 (特別警報)	3m~5m	5m	巨大	●木造家屋が全壊・流出し、人は津波による 流れに巻き込まれる。
	5m~10m	10m		
	10m~	10m超		






迫りくる津波から命を守るには、津波が届かない高い場所へ避難するしかありません。「自分の命は自分が守る」ということを強く意識してください。津波の危険がある場所では、「大きな揺れを感じたら、すぐ避難する」。このことを肝に銘じておきましょう。

●津波から命を守る対応チャート



*ただし、津波注意報・警報・大津波警報によって避難指示の発令対象区域は異なります。

●津波に関する標識を覚えておこう

津波注意(危険地域)	津波避難場所	津波避難ビル
 <p>「地震が起きた場合、津波がおそってくる危険性が高い地域」を表しています。</p>	 <p>「津波に対して安全な退避場所・高台」を表しています。</p>	 <p>「まわりに高台がない場合に利用する。津波から避難できる高さ・耐震性のあるビル」を表しています。</p>

！防災・減災キーワード

「津波フラッグ」を知っていますか？

津波フラッグとは、海水浴場などで津波警報などを伝える旗で、長方形を四分割した赤と白の格子模様のデザインです。聴覚に障がいのある人や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の人に津波の危険を視覚的に伝えます。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。



津波の心得10か条

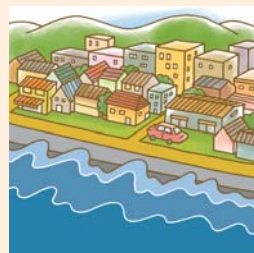
1 小さな揺れでも油断禁物!

小さな揺れでも大津波のおそれがあるので気をつけましょう。



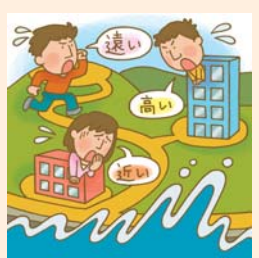
6 満潮時は要注意!

満潮時は水位が高くなり、津波がより高くなるので被害が大きくなります。



2 より遠く、より高い場所へ避難する!

海岸で揺れを感じたら「より遠く」「より高い」場所へ避難しましょう。



7 正しい情報をすぐ入手する!

防災行政無線やテレビ・ラジオなどで正しい情報をすみやかに入手しましょう。



3 津波の速さは想像以上!

早いときには、揺れから数分で津波が押し寄せます。揺れを感じたら、直ちに避難しましょう。



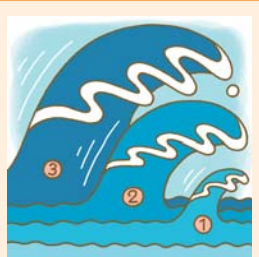
8 河川に近づかない!

津波は川をさかのぼりますので、河川には近づかないようにしましょう。



4 津波はくり返し押し寄せる!

津波は2波、3波と何度も襲ってきます。第1波より2波目、3波目に大津波がくることもあります。



9 海岸に近づかない!

注意報・警報が解除されるまでは、絶対に海岸に近づかないようにしましょう。



5 津波の前に潮が引くとは限らない!

地震の起こり方や海岸の形によっては、津波の前に「引き潮」が起こらない場合もあるので注意しましょう。



10 家族に行く先を伝える!

海に遊びや釣りに行くときには、家族に行く先を伝えておきましょう。



防災コラム「津波てんでんこ」とは?

「地震があったら、家族のことさえ気にせず、てんでんばらばらに、自分の命を守るために一人ですぐに避難せよ。一家全滅、共倒れになることを防げ」という教えです。津波に苦しめられてきた三陸地方に残る津波被害から子孫を残すための知恵です。「津波てんでんこ」は、家族それぞれが避難していることを信じあえていれば、いざというとき、一人ひとりが避難することに専念できるという意味で、「家族の絆」なくして「津波てんでんこ」は成り立ちません。



海拔表示マップ

地震等により発生した津波に対しては、できるだけ早く、少しでも高い所へ避難することが重要になります。災害時に備え、あなたが普段生活している場所や勤務地等の海拔を事前に確認しておきましょう。海拔を調べるにはいくつかの方法がありますが、それぞれ海拔の数値に誤差が生じる場所がありますので、複数の方法で確認しましょう。

東伊豆町白地図 (1/2,500)

東伊豆町のホームページでは、町内各地の海拔を白地図に表示しています。(青い数字の単位はメートル) 例：「3.5」は、海拔 3.5メートルのこと。

- [1] 大川地区、[2] 北川地区、[3] 熱川地区①、[4] 熱川地区②、[5] 片瀬地区①、[6] 片瀬地区②・白田地区、[7] 稲取地区①、[8] 稲取地区②、[9] 稲取地区③

[東伊豆町 海拔表示マップ](#) [検索](#)

静岡県防災 GIS 情報閲覧ページ

静岡県が提供する地理情報システムです。地図の中心点付近の海拔が、画面の左下に表示されます。静岡県 GIS 情報は、海拔表示のほかに第 3 次地震被害想定の大津波浸水域や推定液状化危険度なども表示することができます。

[静岡県地理情報システム](#) [検索](#)

南海トラフ地震 臨時情報

気象庁では、想定震源区域やその周辺で「M6.8程度以上の地震」もしくは「通常とは異なるゆっくりすべり(住民が揺れを感じることがない、プレート境界面のゆっくりとしたずれによる地殻変動)」などの異常を観測した場合、『南海トラフ地震臨時情報(調査中)』を発表します。調査が終了すると、以下のように発表が行われ、避難が必要かどうかを判断することになります。

南海トラフ地震 臨時情報

巨大地震 警戒

- 私たちの対応**
- 津波からの避難に時間を要する要配慮者などは、引き続き1週間避難を継続。
※行政からの呼びかけ等に従って行動を!
 - 大津波警報等が発表されたらただちに避難!

町の主な対応

大津波警報等から津波注意報に切り替わった(当該地域の「避難指示」の解除)後も、後発地震に備え避難対策を講じます。

巨大地震 注意

- 地震への備えを再確認!
- 避難先の確認や家族との連絡手段等を共有しましょう。

町民に対する今後の備えに関する呼びかけます。(①非常用携行品等の確認、②避難先の確認、③家族との安否確認手段の取り決め、④家具の転倒防止の確認等)

調査終了

- 地震への備えを再確認!通常の生活に戻ります。ただし、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意しましょう。

継続して情報収集を実施します。